

【相談】



親会社より、SP M16X2 で、「いちりんぶと」のタップを使用するようにとの指示がありました。
このタップは、どのようなタップですか？

【回答】

「いちりんぶと」は、「一厘太」と書きますが、慣習語になるんだ。

答えとしては、約0.3mmオーバーサイズのスパイラルタップということになるね。



【解説】

ここでいう“厘”は、尺貫法における長さの単位で、一厘は1/100寸にあたります。

一寸は30.3(mm)ですので、一厘 = $30.3(\text{mm}) \div 100 = \text{約}0.303\text{mm}$ となります。

従って、一厘太のタップとは、標準等級のタップより約0.3mm大きいものということです。

※同様に、二厘太(にりんぶと)の場合は、 $\text{約}0.303 \times 2 = \text{約}0.6\text{mm}$ 大きいものとなります。

※このようなオーバー量のタップは、受注生産品となり、今回の問い合わせに関して言えば、

SP II +0.3 M16×2 (一厘太向け) となります。

※SP II +0.3 のM10~M30までは、特定流通品としてラインナップしております。

尺・寸・分・厘 は、日本で昔使われていた尺貫法の計量の単位だよ。



一般的には、「何厘太」までのタップが使われているのかな？

また、どんな業界で使われているのかな？



一般的には、「一厘太」や「二厘太」までが、よく使われていると思います。

ねじ加工後に厚いメッキを施して使用するねじ部品を加工する際に、このようなオーバー量が大きいタップが利用されます。

厚いメッキを施すことを「ドブんと漬けてメッキをかける工程」より、

「ドブツケメッキ」と呼ばれることがあります。

このようなタップは、建設、橋梁、造船関連の業界で、多く使用されています。